

課題名：現代メディア空間におけるELSI構築と専門知の介入

代表者：田中 幹人（早稲田大学 政治経済学術院 教授）

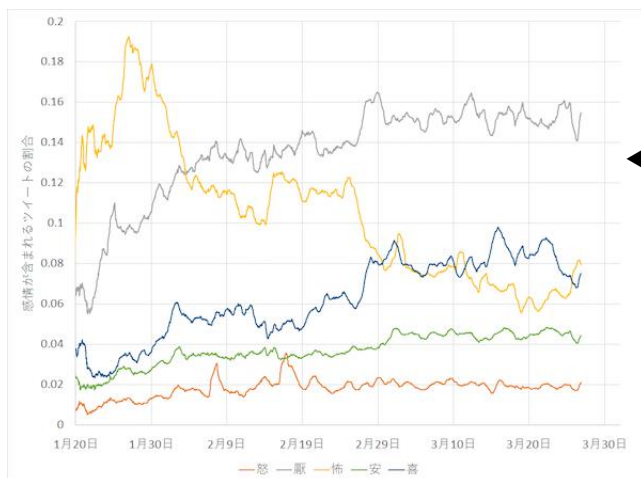
参画機関：国立環境研究所, 東京大学, 豊橋技術科学大学, 放送大学, 早稲田大学 など



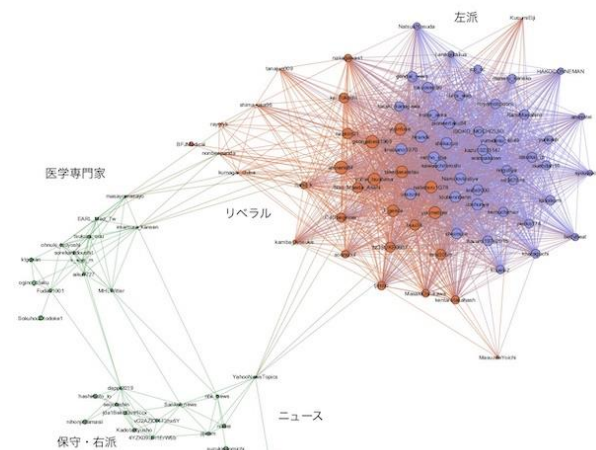
課題概要

科学知が不確実性を伴う状況下での、専門家の社会への参画や専門知の社会適用は、単なる科学知の提供に留まらず、さまざまなELSIを生み出す。新興感染症COVID-19をはじめ、こうした議論が構築される重要な場となっているのは、いまやマス/ソーシャル・メディアが渾然一体となったメディア空間である。

本プロジェクトは、蓄積した膨大なCOVID-19のメディア分析を基に、計算社会科学と科学技術社会論の手法を中心に、ELSIが構築される機序の解明に取り組む。さらに、今後立ち現れるだろう萌芽的科学技術も対象として、メディア分析を通じてELSIに関する社会的議論の萌芽を捉え、専門知を社会の中に位置づけていくRRIの道筋を明らかにする。



◀ COVID-19に関するTwitter議論の感情分析結果



COVID-19に関するTwitter議論の議論分極傾向 ▶

【取り組みのポイント】

- 研究参画者の多くが、COVID-19や実務上でのELSI/RRI議論に深くコミットする立場にあるため、地に足のついた議論／理論／研究／実践の展開が期待できる。
- また同時にコロナ禍に関する議論の中枢へのアクセス性を持つことにより、研究を通じて得た専門知による介入のあり方について再帰的な検討を行う機会を有している。

【研究上のポイント】

- COVID-19に対応した分析
 - コロナ禍に際し、社会（含・科学共同体）の中から立ちあらわれる問題に対し臨機応変に分析。
 - 例1：GoTo議論における「エビデンス」概念の混乱
 - 例2：専門家助言の言説のフレーミングとハイブリッドメディア空間における伝播の問題
- 萌芽的科学技術の問題に関し、海外との比較も含めて日本社会の議論の特質を明らかにする。
- 専門知の社会的意義づけの問題に関しても射程範囲。
 - 例：日本学術会議任命拒否問題についての党派性分析
- 方法論的にもビッグデータから質的言説分析まで、多様なメディア分析経験を有したチームを構成している。
 - マス／ソーシャル、量的／質的な分析を統合的に組み合わせた研究の実施が期待される。